



教育目標



本年度の重点目標

- 1 学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援
- 2 生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立
- 3 進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度

- A ほぼ達成 (8割以上)
- B 概ね達成 (6割以上)
- C 変化の兆し (3割以上)
- D 不十分 (3割未満)

学 校 自 己 評 価

現状と学校評価実施計画

達成状況と改善策

No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学習指導】 ・不登校や学習時間の不足から、小・中学校の学習内容が定着していない生徒が多く見られる。 ・学ぶことへの意欲が低い生徒がいる。 ・非常勤講師を除き、各教科1名の体制であるため、教員同士で切磋琢磨する場面が少ない。	(1) 教員の授業力の向上	①授業の常時公開を実施し、年間2回の公開授業週間とともに、積極的な授業への参観とその後の意見交換やアンケートにより授業力の向上を図る。 ②授業評価を組織的に実施し、結果を踏まえ授業改善を図る。	・授業の常時公開を実施し、年間2回の公開授業週間では1人5回以上参観する。 ・アンケート結果を授業者の振り返りにする。 ・組織的な授業評価を踏まえた授業改善の実施	・常時公開を実施。 ・年2回の公開授業の参観回数平均は1回目4.2回、2回目5.9回であった。授業の良い点等を共有できた。 ・1月に生徒アンケートを実施・集計する。	B	・常時公開は参加者が少なく検討が必要である。 ・校内公開授業への積極的な参加を継続して呼びかけていく。 ・授業評価システムは授業改善に役立つシステムになるよう改善を図る。
		(2) 基礎学力の定着	①漢字テストとマイスタディの事前・事後指導の毎回実施。	・事前・事後指導を毎回実施する。	・毎時間の小テストと生徒の実態に応じた事前・事後指導を行った。	B	・生徒に使用するテキストを、状況に応じ検討していく。
2	【生徒指導】 ・多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。一部の生徒に長期欠席、遅刻や早退の回数に課題がある。また規範意識が希薄な生徒がいる(頭髪、ピアス、SNSの利用等)。 ・不登校を経験したことから、自己評価が低い生徒や、対人関係に悩む生徒が多い。 ・入学を機に学び直しや、様々な活動を通して、自信をもつようになり、進路等の自己実現を達成する生徒も多い。	(1) 生徒指導の充実と規範意識の向上	①登下校、遅刻、頭髪、巡回指導を組織的・計画的に実施する。その際、言葉かけや賞賛により自尊感情を高め、規範意識の向上を図る。また、保護者と連携し、その効果を高める。 ②情報モラル教育、交通安全教育、薬物乱用防止教育、性教育で外部講師を活用する。	・出席率90%以上 ・遅刻者数800件以内 ・規範意識に関するアンケート結果 ・月間皆勤者数の向上 ・規範意識に関するアンケート結果 ・トラブル発生件数	・2学期末現在の出席率78%、遅刻者数536件。特に1学期に長期欠席者が多かった。 ・外部講師による各種教育は、熱心に受講していた。	B	・保護者との連絡をさらに密にし、生徒への声かけを積極的に行うことで、生徒の状況を把握し出席率の向上を図る。 ・教職員間の情報交換を密にすることで、よりきめ細かな指導をする。
		(2) 教育相談の充実と生徒理解の推進	①教育相談体制の充実や、スクールカウンセラー、気付きメモの活用を図る。 ②発達障害や特別支援教育に関する職員研修の実施。	・面接や各年次の情報交換の実施状況、スクールカウンセラーや気付きメモの活用状況 ・職員研修の実施の有無	・担任による面接、生徒への声かけともにこまめに実施した。 ・教員研修は未実施だが、教職員間での情報交換を随時実施した。	B	・生徒に関する情報共有は積極的に実施する。 ・気づきメモに日付を記入し、指導記録としても活用を推進したい。
3	【進路指導】 ・職業観、勤労観が確立されていない生徒が多い。 ・自己理解の不足から、進路実現のための具体的方策を見出せない生徒がいる。	(1) 職業観の確立・進路意識の高揚	①行事を改善し、職業観の確立、進路意識の高揚を図る。 ②勤務先調査を実施するとともに、昼間の時間を効果的に活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・各行事のアンケートおよび作文等の評価結果 ・勤務先調査の結果で就労率75%以上 ・職業観に関する生徒アンケート結果	・進路講演会の内容を変更し、生徒の意識の高揚を図った。 ・勤務先調査の結果、就労率は66.7%であった。	B	・次年度も進路行事の見直しを行う。 ・渉外部と連携して、定時制後援会会員の職場との連携を進める。
		(2) 自己理解の深化	①総合的な学習の時間における取組や適性検査の結果の面談等へ効果的活用を図る。	・職業観に関する生徒アンケート結果 ・進路希望調査における未定者の減少。	・進路希望調査における職種希望未定者の数が10人から4人に減少した。	A	・引き続き、実施する適性検査の面談への活用を工夫する。

学校関係者評価

実施日 平成30年2月22日

学校関係者からの評価・意見等

・様々な事情を抱えている子どもにとって、定時制は学びの最後の砦としての役割を担っている。授業の工夫を通して生徒の学習意欲を喚起する取組を継続する必要がある。

・定通文化発表会や定通総体などの対外的な活躍も、自尊感情を高める機会として生かすことができる。
 ・遅刻者数が大きく減少しており指導の効果が現れている。今後もさらに効果的な取組をしてもらいたい。

・定時制の生徒は明るく積極的に挨拶をしてくれる。定時制のイメージが明るくなった。このイメージを大切にしてもらいたい。

・アンケート項目の「自分の将来について明るい希望をもっている」に対する肯定的回答の割合が増加しており、指導の効果が現れている。この現状を踏まえ、今後も進路実現につながる指導をしてもらいたい。

